

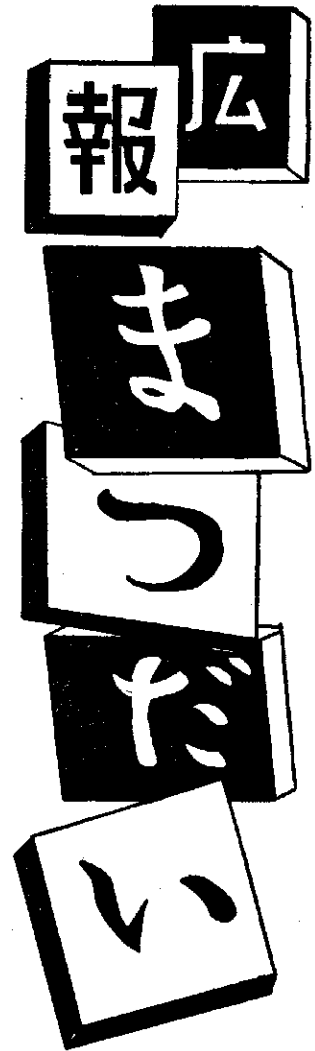
歳入歳出予算事項別明細書

款	本年度予算額	前年度予算額	比較	総予算額比
1. 市町村税	25,264	28,977	△ 3,713	12.6%
2. 地方交付金	87,000	69,149	17,851	48.6
3. 分担金及び負担金	3,416	2,338	1,078	1.7
4. 使用料及び手数料	5,032	3,202	1,830	2.5
5. 国庫支出金	9,043	6,254	2,789	4.5
6. 県支出名義の収入	7,060	3,377	3,683	3.5
7. 財産収入	1,033	1,370	△ 337	0.5
8. 寄附金	4,800	5,525	△ 725	2.4
9. 繰越収入	3,940	3,383	557	2.0
10. 諸繰入金	1,955	1,825	130	1.0
11. 繰入金	27,457	—	27,457	13.8
12. 町入金合計	23,800	—	23,800	11.9
才入合計	199,800	125,400	74,400	100.0

款	本年度予算額	前年度予算額	比較	総予算額比
1. 議会費	4,030	3,027	1,003	2.0%
2. 総務費	69,460	27,327	42,133	34.9
3. 民生費	13,432	5,140	8,292	6.7
4. 衛生費	3,452	4,593	△ 1,141	1.7
5. 労働費	4,714	3,785	929	2.4
6. 農林業費	31,068	18,635	12,433	15.5
7. 土木費	228	228	0	0.1
8. 土防費	18,710	14,219	4,491	9.4
9. 教育費	5,418	4,296	1,122	2.7
10. 災害復旧費	36,272	36,290	△ 18	18.2
11. 公債費	6,442	2,329	4,113	3.2
12. 予備費	6,274	5,231	1,043	3.1
13. 雑費	300	300	0	0.1
才出合計	199,800	125,400	74,400	100.0

三月八日より三日間にわたり町議会定例会が招集され、昭和四十年度一般会計歳入歳出当初予算、継続費予算が審議、議決された。これにより当初予算は一般会計予算総額一億九千九百八〇万円で前年に比較し七千四百四〇万円の増額である。尚、その内容説明は次の通りである。

一般会計当初予算は一億九千九百八〇万円
 教育費は三六二七万円（一般会計予算の一八%）



昭和40年3月30日発行
 第108号
 東頭城郡松代町公民館
 館長 富沢清次
 電話 松代6番
 印刷 松代印刷所

町の動き

三月町行事より

- 一 日 伝染病舎組合会議
- 二 日 家畜診療所打合せ会
- 三 日 教育委員会
- 四 日 教員独身寮建設打合せ会
- 五 日 農道開設打合せ会
- 六 日 移住者打合せ会
- 七 日 国保運営協議会
- 八 日 定例議会打合せ会
- 九 日 定例町議会委員長会
- 十 日 定例町議会（十日まで）
- 十一 日 嘱託員会議
- 十二 日 失業保険説明会
- 十三 日 消防事務担当者会
- 十四 日 松代中学校卒業式
- 十五 日 山平、孟地、奴奈川中学校卒業式
- 十六 日 清水校卒業式
- 十七 日 室野、蒲生小学校卒業式
- 十八 日 松代、北山、峠小学校卒業式
- 十九 日 卒業式
- 二十 日 タバコ専売公社会議
- 二十一 日 役場事務年度収め
- 二十二 日 主な町の動行は以上の様である
- 二十三 日 各委員会、審議会、庁内課長
- 二十四 日 会は新年度計画審議のため、随時
- 二十五 日 開会されていた。

40年2月1日現在	人口動態
総人口	11,565人
男	5,725人
女	5,840人
世帯数	2,383戸

昭和四十年年度予算の

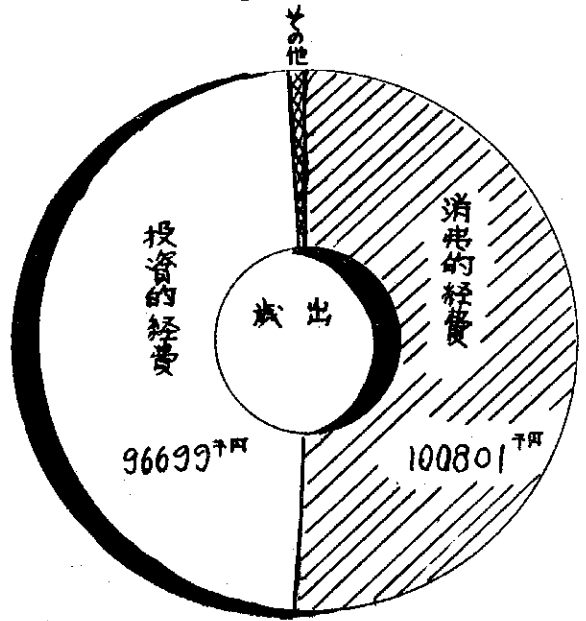
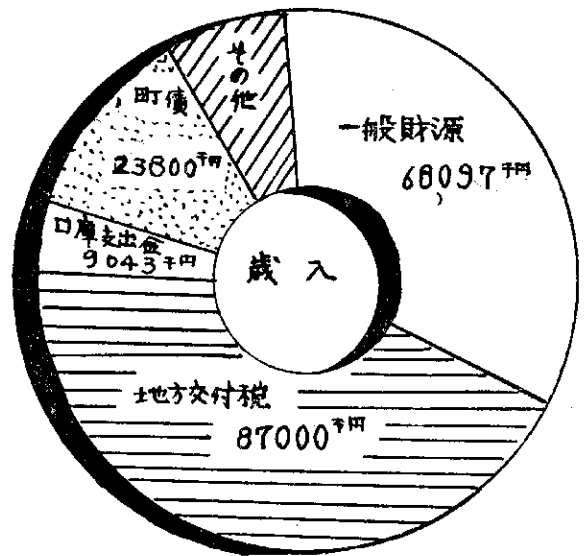
重点事項

- 議会当初町長より四十年年度における予算の重点を細部にわたり説明があり、次にかゝる重点事項をしめされた。これによると四十年年度における町政の大きな目標
1. 農業構造改善に対する町当局の総合計画
 2. 学校教育設備の充実
 3. 災害の復旧事業
 4. 保育所等、幼児保育の充実をはかると共に、一般民生事業の拡大
 5. 住民税の軽減
- を示めされるものとして、歓迎された。尙しめされた重点事項の概略は次の通りである。

昭和四十年年度予算の重点事項

- 1 北山小学校、筋平分校の改築費七〇〇万円を計上して、教育施設の整備をはかる。
- 2 町道の新設改良、並に一般土木災害、公共土木災害、公共農林災害の復旧等、土木行政に重点を注ぎ、前年度より八六〇万円増額する。
- 3 プルトーザー一台増設すること

昭和40年度性質別予算比較



- にして、五七五万円を計上し、無雪道路の実現、町道の新設改良、農道の開発等、農業の近代化をはかる。
- 4 林道の開発、公団造林事業を継続して実施し、林務行政の推進をはかる。
- 5 常設保育所新築費五一八万円を計上して、幼児教育の充実をはかる。
- 6 交通安全対策のため、カーブミラーの増設費を計上して、交通対策を強化する。
- 7 松代地区に街路灯の建設をはかり、商業行政の推進をはかる。
- 8 松代高校の屋外グラウンド整地事業に協力して、高校教育の向上をはかる。
- 9 住民の負担については、固定資産税の税率を前年度同様一・六として、住民税は国の方針に基いて但書方式を本文方式に改め負担の軽減をはかる。
- 10 經常経費については、極力適正化に努め、財政の健全化を計り職員増員は最少限度にとめる
- 11 特別会計は、その事業の実績を充分勘案して推進し、事業目的に添うようつとめる。

松代町議会常任委員会決定

新年度予算の可決をみた町議会では、新たに各常任委員を任命、それぞれ常任委員会の編成を行った。新たに任命された委員会は左の通りである。(◎印委員長 ○印副委員長)

- 総務文教委員 ◎武田 良平
 ◎山本 昇治
 高橋新太郎
 柳 文雄
 小山菊次郎
 鈴木 芳平
 秋山 利作
 井上 良平
 柳 文次
 ◎石野 勝以
 小野島啓太郎
 牧田 清一
 ◎山岸 勝重
 産業経済常任委員 佐藤 兼作
 ◎柳 喜三次
 ◎米持幸太郎
 齊藤元三郎
 高橋 忠平
 柳 一郎
 若井 金八
 小堺 盛一
 ◎武田雄一郎
 美濃和政則
 若月 正繁
 五十嵐武雄
- 土木常任委員
 ◎山岸 勝重
- 社会常任委員

① 議会費は四〇三万円
② 総務費は六九四六万円

主な事業は四十年、四十一年度、四十二年連続事業の本年度分として三九八五万円が決定され他に三回行なわれる選挙費が一五〇万円。また松代高校グラウンド整地が初まるので二八万円の地元負担金、それに松代街路灯設置助成金として四五万円、町の交通安全対策として道路の曲り角にカーブミラー十八ヶ所に設置予定で三九万円が主なるもの。

③ 民生費は一三四三万円

主な事業は町立保育所(通年)の建築(延坪数八七坪)が一八八万円保育所費が一二六万円と主力をここに置き、他の季節保育所費も一〇〇万円を見込んである。又老人クラブ育成のため九万円を計上、又生活保護費として四六四万円が計上されている。

④ 衛生費は三四五万円

一般会計予算と主な施行事業 経費と負担金

うち水道事業会計繰出金(起債の繰上償還金)として一七〇万円
火葬場建築費補助として二ヶ所分二十万円予防費として各種病氣予防対策に七九万円を見込んである

⑤ 労働費は四七一万円

主なるものは失業対策費の三二二万円(延三百人、原材料費九十九万円等)である。

⑥ 農林業費は三一〇六万円

ここではブルトーザー(シヤベルカー)購入費として五七五万円が計上され、農地開発にあたる計画である。又町内各地の農道開発として池尻、田野倉、竹所、諏訪峠、会沢、田代、蒲生、菅刈、千年、池の畑、小荒戸、儀明等総事業費として一五〇万円、県単事業として木和田原、蓬平、峠等で四〇〇万円があげられ、他に公園造林費として福島地区、海老地区三五町歩の植林育苗に四〇三万円。和牛種付料六〇〇頭を予定三〇〇万円を見込まれている。又病害虫防

除班育成費として六八万円も計上されている。

⑦ 商工費は二二万円

⑧ 土木費は一八七二万円
道路維持費として四六〇万円これは前年度より四三万円の増額である。また道路新設改良費として六〇六万円これも三三五万円の増額となっている。主なる線は、田沢、下山の村内線他一三路線となっている。また橋梁新設改良費として犬伏橋の一〇九万円、鬼田橋の二三万円も計上された。

⑨ 消防費は五四二万円

そのうち小型ポンプ購入費として二台九三万円が計上、下山、田野倉にそれぞれ配置される他、防火水槽建設費補助金として、田野倉、峠、小荒戸、千年、寺田の各部落に合計七八万円、団員八〇〇名の報酬費が八六万円、消防道路開設として池尻、亭島二ヶ所で二八万円が主たるもの。

⑩ 教育費は三六二七万円

大きな事業としては、初平分校の改築(一階七〇坪、二階五六坪)の費用七〇〇万円、小学校費が一五八二万円、中学校費が七二八万円見込まれている。また社会教育費は二一三万円が計上された。

⑪ 土木災害復旧費は六四四万円

主なるものは一般災害復旧費として、菅刈文堂橋下部、災害応急原材料、松代海老線等二三六万円公共土木災害復旧費として、小屋丸、筋平、蓬平等に合計二七二万円。公共農林災害復旧費として室野一〇九万円、松代一五万円がそれぞれ計上されている。

⑫ 公債費は六二七万円

これは昭和四十年債利子が主なるもので一九三万円、償還金利子及割引料が二四四万円などが計上されている。

⑬ 予備費は三〇万円

以上が主なる事業内容と事業経費の概略である。

昭和四十年 議会定例会開かる

去る三月八日より三日間にわたり予算議会と称せられる定例会が開かれた。この席上次の通り議案提出可決された。

1. 旧県道路敷を町道に認定(松代松之山線のうち千年地内)
2. 旧県道敷を町道に認定存置(松代、池尻地内八之倉線)
3. 町道の認定変更について
◎変更前 へり、福島橋、県道
◎変更後 新宅、最ノ上、県道
◎変更後 新宅、新宅、最ノ上、新宅、県道、佐越橋、林道
4. 松代町農業共済事業に係る出納その他の会計事務の一部に係る権限を収入役に行なわせる条例の制定(現金の収納又は支払現金の保管) 昭和四〇年四月一日より施行
5. 松代町農業共済事業の状況を説明する書類の作成に関する条例の制定(昭和四〇年四月一日から施行)
6. 昭和三九年度松代町特別会計国民健康保険事業勘定歳入歳出補正予算(五六一〇万円)
7. 昭和三九年度松代町一般会計補正予算
8. 松代町立学校教材センター設置条例の制定(松代小学校に置く)
9. 農業共済条例等の一部を改正する条例の制定(昭和四十年四月一日より施行)
10. 新潟県町村職員退職手当組合理約改正
11. 松代町税条例の一部改正
12. 松代町国民健康保険税条例の一部改正
13. 松代町固定資産税臨時増徴条例の制定
14. 松代町議会の議員の報酬及び費用弁償等に関する条例等の一部改正
15. 松代町教育委員会教育長の給与及び勤務時間等に関する条例の一部改正
16. 松代町役場位置変更条例の制定
17. 営造物の設置について
18. 昭和四十年度松代町一般会計歳入歳出予算

性質別内訳表

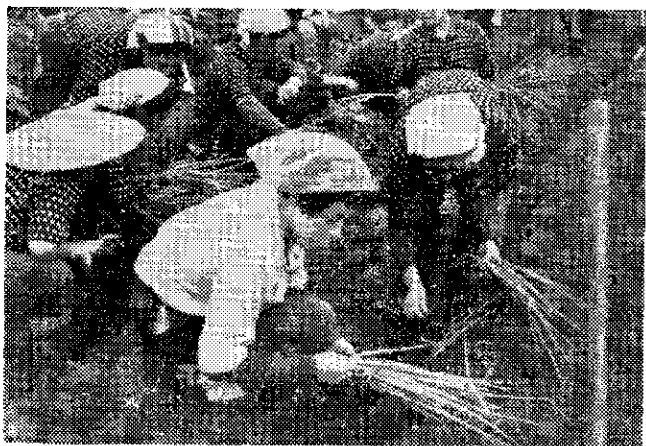
区分	総額 ①	①に対する 百分比	町人口 一人当り	類似団体		Aのうち 一般財源
				率	人口1人当り	
1. 地方税	25,264	12.6%	1,982	23.6%	2,703	25,264
(2) 地方交付税	87,000	43.6	6,653	35.9	4,120	87,000
計 (1+2)	112,264	56.2	8,585	59.5	6,823	
3. 分担金及負担金	3,416	1.7	261	1.4	163	
4. 使用料及手数料	5,032	2.5	385	2.1	239	
5. 国庫支出金	9,043	4.5	692	10.5	1,204	
6. 県庫支出金	7,060	3.5	540	10.3	1,176	
7. 県財産収入	1,033	0.5	79	1.6	186	
8. 寄附金	4,800	2.4	367	2.7	310	
9. 繰入金	27,457	13.8	2,100	0.9	102	
10. 繰越金	3,940	2.0	301	3.4	390	3,940
11. 諸町合	1,955	1.0	150	1.8	202	10
12. 計	23,800	11.9	1,820	5.8	667	
計	① 199,800	100.0	15,280	100.0	11,462	116,214

へ歳入

区分	総額 ②	②に対する 百分比	町人口 一人当り	類似団体		Bのうち 一般財源
				率	人口1人当り	
1. 人件費	42,771	21.4%	3,271	25.4%	2,819	41,224
2. 物件費	34,477	17.3	2,636	14.9	1,649	20,210
3. 維持補修費	5,282	2.6	404	2.7	299	4,289
4. 扶助費	1,643	0.8	126	1.6	177	860
5. 補助費	10,394	5.2	795	8.5	947	10,366
6. 公債費	6,234	3.1	477	3.8	415	6,334
計 (1+2+3+4+5+6)	100,801	50.5	7,709	53.1	5,891	83,183
7. 普通建設事業費	87,253	43.7	6,673	32.9	3,659	26,487
(1) 補助事業費	17,191	8.6	1,315	21.6	2,411	4,143
(2) 単独事業費	68,562	34.3	5,243	11.3	1,248	20,844
(3) 県営事業負担費	1,500	0.8	115			1,500
8. 災害復旧事業費	6,342	3.2	485	5.6	616	3,270
(1) 補助事業費	3,980	2.0	304			1,095
(2) 単独事業費	2,362	1.2	181			2,175
9. 失業対策事業費	3,104	1.6	237	1.9	211	1,074
(1) 補助事業費	3,104	1.6	237			1,074
(2) 単独事業費						
10. 受託事業費	96,699	48.5	7,395	40.4	4,486	30,831
計 (7+8+9+10)	600	0.3	46	0.5	55	600
11. 出資金及貸付金	100	0.0	8	0.9	101	—
12. 積立金	1,300	0.6	99	1.2	128	1,300
13. 繰前年度繰上充				0.1	16	
14. 前年度繰上充	300	0.1	23	—	—	300
15. 予備費						
計	② 199,800	100.0	15,280	100.0	11,092	116,214

へ歳出

(4)



冬越し作物の共同学習 (12月写す)

お母さんガンバレ

町内各地の婦人学級状況

数年来、日覚ましい程の学習を続けてきた町内各婦人学級が、三十九年度も又新しい問題を追い続けて、果敢に学習を行ったことは各方面に大きく評価されている。派手な活動よりも、先ず自分の足が大地に根をおろしたものでありたいと、自分達自身の姿を見つめ自分達自身の考えを確かめてきたこの年の学習は、何処でもそれなりの効果をあげたようだ。真剣に自分の問題点を出しあってより近い仲間作りをやったグループ、年間を通して一つの問題を深く掘下げていった学級、今年こそ学級の運営のしっかりした基礎作

りをやりたいとアンケートを何回も取り続けた学級、生活の中で私達を皆でやろうと誓い合った学級と、いろいろな問題に真剣に取り組んでもらった。町内全部落ともいわれる婦人学級が、生産学習にのみ重きを置いた従来の学習内容から社会的なものに身をつけるべく努力する型に変わりつつあるのは時代の一つの流れだけではない。出稼ぎ問題、農家後継者の問題、人手不足からくる農業経営の問題、三才児教育の問題等、深く掘下げてみると、もっと知らなければならぬ事が多くあることに気が付いた一年間の学習状態だった。婦人学級が何を狙えばいいのかという根本的なものへの反省と、今年、又新しい年度の学習計画が各学級とも組まれている。

昭和39年度婦人学級実績

字	名	隣組数	現勢調査回数	延人員	時間数	
荒屋之	代戸平	23	396	175	3,317	498
	刈沢丸	4	37	22	524	69
	山年	5	28	21	477	75
	尻沢水	6	52	25	480	75
	山平	4	38	26	409	72
	老伏地	3	24	14	374	65
	山沢子	5	25	18	382	43
	島倉納代	7	40	18	412	55
	平池生	10	93	23	1,498	84
	明島立	6	30	20	451	69
桐野	野所	7	52	28	844	91
	原	10	73	22	715	46
	野	9	41	31	640	86
	み	8	83	22	631	68
	訪	1	9	25	577	60
	原	5	53	29	1,169	71
	野	4	27	16	277	42
	原	1	16	18	253	57
	野	3	29	22	486	91
	野	1	10	9	86	35
良濁	野	5	38	19	464	51
	野	5	71	15	475	39
	野	4	42	14	315	48
	野	5	56	2	80	6
	野	6	56	22	501	68
	野	3	18	26	374	67
	野	3	29	7	79	7
	野	4	40	40	409	123
	野	3	27	26	289	66
	野	11	116	82	1,340	261
木和	野	10	94	22	619	81
	野	5	56	34	878	144
	野	3	24	25	463	59
	野	41	235	36	961	186
	野	7	39	22	479	81
	野	4	34	22	479	81
	野	9	67	16	304	48
	野	8	60	16	304	48
	野	8	60	16	304	48
	計	273	2,438			

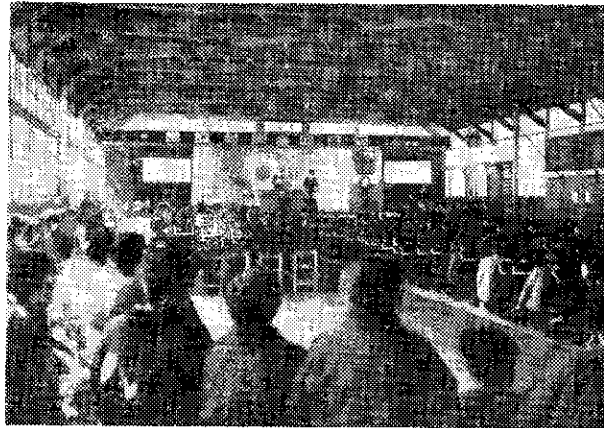
となり、昨年度に比べると高校進学率もやゝのびてきた。又年々減少をみる家事従事者希望も今年は三十五名を数えているが、これも卒業後、別の職業につく者も多いのではないかとされている。

計	松代中学校	孟地	清水	山平	奴奈川
一五〇	四二	二七	三六	三八	三七
三五	一一	六	六	四	八
一四九	六六	六一	六	三	二

昭和四十年三月中学卒業生進路表
三月も中旬を過ぎた十六日、町内各中学校のトップを切って松代中学校の卒業式が行なわれた。町内各中学校はそれぞれ、十八日は山平中学校、奴奈川中学校、孟地中学校、二十日に清水中学校と卒業式が挙行、戦後っ子といわれる生徒が希望も新たに義務教育の学窓から巣立っていった。その卒業後の進路をみると

お目出度う！ 卒業生諸君

町内中学生 三三四名



就職を職業別にみると、店員四十四名、工員二十七名、紡績工二十九名が主なるもので、これ等の者に対しての町の係、及び学校の職業担当教師共に、定時制高校、職業別青年学級等、後期中等教育の場を与えるべく、各方面に強力に呼びかけ、その万全に努力をほら

った。又入家者に対して、町の教育機関の一つであるラジオ農業学校に入校をすすめそれぞれその対策を図るなど、積極的指導にのり出した。

オレ達も仲間づくりだ

町内各地に老人クラブ

長い冬場のすっきり雪にとざされた町内部落のあちこちに、今年足した。とかく老人のあり方がとやかく言われる世相の中で、移り変わる時代に対して、その立場とあり方を求めようと、同一部落の六十五才以上の人達が集り、何か意義のある仲間づくりを老人クラブを結成、その活動にのり出した。年寄りも知らなければならぬ事、又楽しい行事を中心に、月一回以上の集りを持ち、お互い語り合い、レクリエーションに若さを求める姿を今年各所に見ることだろう。そして、そのクラブの発展を心からお祈りしたい。

住民登録の届出は

すみやかに

必ず十四日以内に

昭和二十七年に住民登録が出来て今年で十四年目になります。届出を怠った者に対して、今まではPR期間というような意味で、あまり嚴重な罰則は適用しなかったのですが、今年からは嚴重に取締まることになりましたから、次のことを御了知の上、必ず十四日以内に届出を済ますようお願い致します。

転入届—松代町以外の市区町村から松代町に入って住所を定めた場合に届出るもので、用紙は役場にありますが、印鑑と転出証明書(配給関係のもので通称移動証明とも言う)を持って役場の窓口へ届出において下さい。

出稼先で住民登録した人は、帰る時必ず転出証明書を役所から貰ってきて役場へ出して転入届をして下さい。

転居届—松代町の中で住所をかえた場合のことで、例えば千年から田沢へ嫁にいったとか、転勤で田野倉から室野へ移ったような場合です。用紙は役場に用意してありますから、

印鑑だけを持って役場の窓口へおいで下さい。

世帯主変更届—今まで世帯主だった者が死亡したとか、他へ転出したとか、あるいは老令になって代るような場合で、いわゆる世帯主が変更になる場合の届出です。用紙は役場に用意してありますから、印鑑だけを持って役場の窓口へおいで下さい。

住民登録の有無は住所の決定要件です。選挙権、国民健康保険、就学、登記、自動車、バイク等の免許、失業保険等に深い関係があり、印鑑証明、住民票の謄抄本、住民票記載事項証明証等は住民登録がしなければ交付を受けることが出来ません。

雪の中の珠算検定

去る二月二十一日、松代中学校を会場に第九回の商工会珠算検定が行なわれた。この日は吹雪の中を町内各学校珠算塾の児童生徒約四百五十名は、早朝より会場につめかけ、日頃の努力と練習をこの日にと意気こんでいる有様に、関係者一同喜び合った。尚合格者は百六拾四名にのぼり、今後益々発展することを希望していた。

各級の合格者は次の通りである。

- 二級 四名
 - 市川 文子(松小小屋丸分)
 - 仲村 節子(山平中学校)
 - 市川トシ子(松代中学校)
 - 白井 松枝(松代高校)
- 三級 十六名
 - 室岡いつ子(北山小学校)
 - 樋口 晴美()
 - 関谷小百合(松小菅刈分校)
 - 若山 俊弘(蒲生小学校)
 - 菅井 操()
 - 丸山 洋子()
 - 茂野 孝蔵(清水小学校)
 - 万羽みきえ()
 - 秋山千穂子()
 - 片桐 輝夫()
 - 山岸 涼子(蒲小寺田分校)
 - 相沢 一男(関谷定一郎塾)
 - 若井きぬえ(松小蓬平分校)
 - 関谷 春水(蒲小儀明分校)
 - 齊木 幸子(鈴木美江子塾)
 - 高橋 勝(松代中学校)

- 四級 二十一名
- 五級 三十七名
- 六級 四十五名
- 七級 二十五名
- 八級 十五名



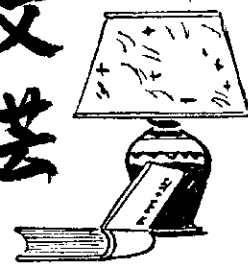
さをたわめ揺れるがに浮く。

- 高橋 芳平
 - ①ポーナスを得し記念にと教え子がはるばる贈りし辞書重々し。
 - ②炉炬燵の粉火ぬくしと掘りおこしほりおこし顔をよせてあたるも。
 - ③サブリックにラジオを秘めし青年と通送隊と雪道をゆく。

- 本山 祖道
 - ④川面を低く飛び来し鴨の群橋にかかりて高度を保つ。

- 本山 祖道
 - ⑤さわらび短歌会では会員を募集していません。入会希望の方は、ここに歌を発表している誰かに御連絡下さい。

文芸



び会
ら歌
わ月
さ2

- 本山 祖道
 - ①雪しずれしきりに落つる雑木山にかけす幾羽か声透りくる。
 - ②雪の間を出たる水は黒々とうねりつつまた雪の間に入る。
 - ③はらからに相容れぬ児の何か問ふすくなき言葉は殺すべからず
- 本山 祖道
 - ④吹く嵐小止みとなりし青空をち

- 高橋 芳平
 - ①出稼の夫への文に書き添えぬ牝牛の生(あ)れて健やかなりと。
 - ②冬の菜を青く茹でつつ老い母のカロリー多しとほほえみて言ふ
 - ③誰かひとり去らねばならぬ教務室梅はころびて春を告げなむ。
- 高橋 芳平
 - ④次ぎつぎと仕事に追わるる日日にしてふとかすめゆく空虚感あり。
 - ⑤今朝三時仔牛の雌の生まれいで夫出稼の家も春めく。
 - ⑥鑿吹く嵐にトビは抗しかねつば

Copyright © 1952 by Shinko Shoten, Ltd. All rights reserved.